

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	2020年1月14日	評価結果市町村受理日	2020年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	2020年1月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとり一人に対して尊厳をもって接しています。そして常にしっかりみる事によって「細かな変化に気付く」ことを心がけています。全スタッフが情報を共有するようにし、常にケアを第一優先に考えて業務を行うようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本館に併設する形で開設され8年目となるホームである。式番館という名称であるが今や立派に独立し、チャレンジング精神にあふれる管理者(施設長)によって利用者にも明るさがある。管理者は人材の育成にも力を入れており、今年介護福祉士の資格を取得する職員が出るなど職員の動きにも活気が感じられる。「利用者を尊い存在として大切に思う」という理念が貫かれており、ホーム全体に気品が漂っている。コロナウイルスで騒然とした環境であるが、昨年度からいち早く導入した次亜塩素酸ソーダミストの噴霧装置で、安心な生活を実現している。職員といっしょに作る手作りの食事が利用者の楽しみとなっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が住み馴れている地域で安心して生活を続けられるよう、またひとり1人に向き合い尊重される権利に基づき他利用者様との関わりにおいても安心して過ごせるよう努めている。	「利用者をごい存在として大切に思う」という理念を真摯に貫いている。その精神が職員全体に浸透しており、向上心も強く、ホーム全体に落ち着いた雰囲気がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の際、挨拶だけでなく立ち話するようになった。利用者様に負担にならないように配慮しながら町内のイベント等に参加している。	八木南自治会長が運営推進会議に出席している。また、近隣の八木団地での高齢者の体操教室への誘いや、消防訓練時の手伝いの申し出もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表は地域の方々と親身に交流を持ち相談やアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際、ご家族様からの意見や感想なども頂き柔軟にサービス向上に活かせるよう努めている。	2か月ごとに開催している。市の介護支援課や地域包括支援センター、自治会長、家族の参加がある。異常気象の頻発した昨年の経験を生かすべく、災害時の協力関係などについての話し合いも行われている。	家族の方の参加を呼び掛けているが参加が思わしくないようである。インセンティブなどについて職員間で話し合われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にお出での際、また介護相談員の毎月の訪問を通して、日々の利用者様のご様子や実情、サービス方針を伝えている。	市の主催するグループホーム部会に参加し行政や同業者との情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の定期的なミーティングを行い、教育、管理者とスタッフで現状の見直し、拘束禁止事項の確認を行っている。	年3回の外部研修に参加し、その結果を内部で議論し、周知徹底を図っている。安易に車椅子生活にしてしまわないで、できる限り歩行を支援する努力を継続し、QOLに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なミーティングを行い、ひとり1人に合ったケアなどを含め、虐待に該当することは何かを学び、虐待行為を行わないよう皆で注意を払っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネジャーと管理者で行っている。職員においては勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前には十分な説明を行っている。改定の際にも運営推進会議や文書を通して十分な説明を行い同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議の際、ご家族様にも必ず意見をいただくよう努めている。それらを運営に活かせるよう職員も努めている。	運営推進会議や訪問時を、家族と話せる大切な時間ととらえており、積極的に話題を誘導し、話しやすい場の構築、定着に腐心している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員の意見や提案を言いやすい状態を作り対応している。疑問はそのままにせず、代表や管理者に必ず相談し、問題を共有するようにしている。	会議の場では意見が出にくいので、日常の業務の中で意見や提言を出しやすい関係を作っている。出された意見は代表や管理者と必ず話し合うことで問題の共有を図っている。職員のスキルアップ志向も強い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績をしっかりとみて下さっているためスキルアップを目指す職員も増えている。休日の希望日への配慮がされたシフト作成をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必須の外部研修や内部研修や現場での指導を行っている。外部研修をもっと受けたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の管理者会議を定期的に行い意見交換を行っている。市内の管理者会議の下部組織を作る話も挙がっている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努め、気持ちに寄り添ったケアを心がけている。信頼関係を築き不安なく穏やかに過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者はご家族様との話し合いに時間をかけ、安心してサービスを受けられるよう契約前から信頼を積み重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とも初期対応からしっかりとお話をし、その時に合ったケアを提供できるよう見極め、方向性を考えている。他のサービスが適切であればその提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりの人間としての人権を尊重し、尊い存在として大切に思いケアをしている。できること、できないことを見極め、できないことへのサポートを行うように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には気兼ねなく居室でゆっくりお話しできる場を提供している。ご本人のご様子もお伝えしている。中々来られないご家族様に関してもハガキや文通をし、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さる方も会え、大切な方との時間をゆっくり楽しんで頂けるよう支援している。	年末年始、ご家族で過ごされることを勧め、自宅で過ごした方や、来訪したお孫さんともゆっくり楽しむ方など、利用者に寄り添った支援がされている。利用者は各自、筆ペンを持って日ごろから手紙や年賀状を交換するなど、大切な方との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置に配慮し、孤立を防ぎお互い支え合い助け合いが出来るよう、レクリエーションや体操など皆様と一緒に楽しむよう支援している。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちや希望を第一により良い暮らしを送れるよう、話を傾聴し日々のケアの中で感じ取り意向に添えられるよう支援している。	一人の「人」として尊重しその人の視点や立場に立って、ケアをしている。いつも傍に寄り添う職員は、傾聴することが思いや希望を知ることと、回想法を取り入れるなどして理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	大切な思い出や故郷を忘れないよう、素敵な笑顔が引き出せるよう、生活や暮らしの情報集めは回想法を使うことが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時その時の、ご本人の心身の状態に合わせ寄り添ったケアをすると共に、持っている力をできるだけ多く活かせるよう見守りもを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングに記録し、小さなことでも気づきは代表に報告し、チーム全体でケア内容の把握と改善に努め、より良い介護計画を目標としている。	毎日利用者一人だけのモニタリングが行われている。その日勤務の職員は利用者の状態・意向について気づいたことを記録している。介護計画は利用者ごとの目標を定め、その人らしい落ち着いた生活が維持できるよう、そのモニタリングの結果を総合して作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化やその日の体調等、全時間帯のスタッフは記録や申し送りを通し、把握している。気づきは全員で共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに合わせて、ご本人とご家族様の意見、要望等聞き入れながら受診対応や買い物の代行を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜の季節にはすぐ近くにある桜の木の下まで全員でお花見会を行います。夏は祭りに行くなど地域の方と触れ合いやお声かけなどを通じて関わり合うと共に地域資源にも触れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を強制せずご希望の医療機関を受けて頂くようにしている。訪問診療の診断の結果などご家族様に報告し話し合い、ご本人・ご家族様の希望に沿った対応をしている。	月2回の主治医の往診は2つの医療機関から選択できる。診察の結果は家族に報告し、本人・家族の希望に沿った対応を行っている。緊急時24時間オンコールの提携をし医療連携は充実している。訪問歯科医の診察、口腔ケア指導がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや異変等は代表に報告し、訪問診療先に指示を仰いでいる。診察の際には医師に情報を伝えて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院した際、スムーズにその時の状態に対応できるようしっかりと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルを作成して頂いている。話し合いをしっかりと行い、情報共有し、ご本人・ご家族様の意向に沿えるよう支援している。	終末期の支援については、医師、家族と十分に話し合いを重ね、共に進めるよう方向性を同じにしている。リビングウィルの作成を依頼し、意向を共有している。緊急搬送時についても全員咄嗟の対応ができるよう日頃から周知徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	代表、管理者、現場リーダー間の連携を密にし、即時対応な体制を整えている。現場リーダーにより、都度、全スタッフへの指導を行っているところである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行い、毎回反省文提出の上で常に改善を目指している。非常災害時の避難場所への誘導について、今後行いたい。	年2回消防訓練を本館と合同で実施しその都度反省をし改善に努めている。今年度は台風など災害対策について見直し、施設内設備を確認し、停電に備えた備品、食料等の備蓄を大幅に増強した。利用者9人分の避難用リュックを用意している。	

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずは利用者様の安全が第一だが全ての方の人格を把握し尊重し、プライドやプライバシーを損ねない対応をしている。	利用者を人生の先輩として尊敬し本人の意思を尊重した支援に努めている。丁寧な対応ができるよう職員間でフォローし合い目配り、気配りの行き届いた寄り添う支援の実践に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望には親身に傾聴し、ご本人の意思を尊重し、自己決定できる方はして頂いている。中々表現されない方には表情を読み取り、寄り添いながらお話が聞けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前に体を動かすレク、午後は遊びや脳トレなど1日にレクが組み込まれている中でひとり1人のペースに合わせて内容を変えたりご本人の希望に合わせて楽しんで頂くことを日々考え支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たい服を着て頂いている。コーディネートが難しい方にはお手伝いし、その人らしい服を選ばせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片づけまでひとり1人の力に合わせてお手伝いして頂きます。一緒に食事をし、お話ししながら楽しい食事時間となるよう心掛けている。	職員手作りの食事は旬のものを取り入れ、出汁を使った塩分控えめな料理を提供している。利用者は下拵えや片付けなど自分の役割として取り組んでいる。嚥下体操、口腔ケアで、オーラルフレイルを予防し、いつまでも自分の口でおいしく食べることを目指し支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表をもとに食事量・水分量を確保できるので日々の変化がわかりやすくなっている。ご自身で召し上がれない方に対しても1日の摂取量を満たすよう介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。一緒に食事をし、小さな変化にも見逃さず異変がありそうな時にはお声かけしている。口腔ケアの介助時には磨き残しが無いよう努めている。訪問歯科対応も行っている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもと声掛け誘導を行い、自立へ促している。	排泄リズムを把握し、声掛け誘導をさりげなく行い、プライバシーに配慮している。下肢筋力を鍛え立位を保つため、廊下の手すりを使った運動や、毎日の散歩で自立支援に当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設の方針に基づき、薬に頼らず運動、食事、水分量を把握し、腹部マッサージを行い、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。その中で体調面に配慮しつつ、リラックスして入られる方、お話しを沢山される方などひとり1人に合わせて気持ちよく、気分向上ができるよう支援している。	入浴は週2回、ベテランの職員と会話を交わし、健康チェックの時間でもある。バイタルチェック、普段と違う様子はないか見落とさず、打ち身や皮膚の異常など入浴報告ファイルに記録し、主治医と連携した健康管理が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活にメリハリをつけて日中活動して夜しっかり眠れるよう取り組んでいる。ひとり1人の体調や病歴に合わせて日中無理なく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更はスタッフ連絡ノートを通して全スタッフが把握できるようになっている。新しい薬など変化に慎重に日々観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハの中でもできることの違いをひとり1人把握し、役割を持って行って頂いている。レクの際にも力が同じ方同志で組むなど工夫し、張り合いを持てるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日天気やバイタルチェックを行い体調に配慮しながらお散歩に行けるよう支援している。	散歩は一人ひとりの体力、体調を考慮したコースが用意され、スロープの上り下りなどを楽しんでいる方もいる。散歩の折は、近所の方と挨拶や会話が有り、庭先の椿の花を頂いたり、親交がある。誘われて町会の夏祭りや花まつりに出かけている。	



50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所が行っているので希望に応じて使うことはできないが、ご家族様と出かけた際に忘れていないためにも、お金のイラストを用いた計算プリントなどを行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームにご家族様から電話がかかってきた際、楽しそうにお話しされている。年賀状、暑中お見舞いを通じ、ご家族様との交流も行っている。お手紙を書かれる方にはレターセットを用意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日一緒に掃除している。居間での座席も日差しを苦手とする方への配慮を含め、居心地良く過ごせるよう、清潔感のある生活を心掛けている。	明るいく清潔感のあるリビングは、毎日利用者も一緒に空気の入れ替えをし掃除を行っている。午前中はクララオリジナル体操や散歩で体を動かし、午後は習字や工作をしたり、時にはお菓子作り等、趣味の時間を楽しんでいる。マカロニで作ったリースは圧巻で、家族が来訪した際には作品をお土産にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり1人が穏やかに落ち着いて過ごせるよう、孤立の無いよう工夫している。ソファスペースは誰でも使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具等を使用して頂いたり、家族の写真やカレンダー等、生活に合ったものを自然に置いている。ただ眠るだけの部屋とならないよう、ご本人にとって居心地の良い空間作りを心掛けている。	利用者が安心して過ごせるよう使い慣れた家具が持ち込まれている。生活のメリハリをつけるため、朝起きると窓を開けベッドメイキングをしている。布団を干したり、気持ちよく生活できる環境を作っている。身なりを整えてリビングに集まる習慣がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室そうじなど生活リハに取り組み、できることはご自身で行って頂いたり、同じような扉には目印をつけ自立した生活ができるよう支援している。		